

洋書輸入協会会報

VOL. 3

NO. 1

昭和44年1月

年 頭 雑 感

相 良 廣 明

今年の我々の業界は、世間の大型景気をよそに種々と問題の多い年になりそうである。

その問題の第一は、昭和43年7月に行われた第一次50業種の資本自由化に続いて、44年中に第二次としてどの位行われるか、殊にその中に出版資本が含まれるか否かの件である。

この問題は、当面顕著な変化がなくても、永い間には必ず大きな、且決定的な影響を我々に与えることとなろうから、我々業界としてもじっくりと研究する必要がある。

その第二は、我々業界の大部分の方々が関係を持つ学校紛争の問題である。これはお得意先が我々と同様の被害者で、それどころではないというのが実情であるが、我々の側としても昨年以来の受注減、廻転率鈍化等の累積した悪影響が、今年に入って顕在化すると予想され、これは紛争件数の増大と相俟って雪だるま式に悪循環を生みかねない形勢にある。

先日の協会懇談会で、「何等かの意志表示を」と決定されたが、効果の如何は全く分らない。然し効果の如何を問わず業界として意志表示を行わなければならない段階に達して来ている。

我々の業界は幸いなことに今までの幾度の不景気を潜り抜け、大きな破綻を見せずに経過して来た。又我々が従事している仕事は、その成長がそのまま日本の文化・産業発展の基礎になるという恵まれた、誇り高い業種でもある。

それだけに、試練の年の今年を迎えて、必然的なお互いの激烈な競争を節度のあるものとし、昨年の英国出版社代表団のあの熱烈な、しかも品位のあるプロモーションぶりを参考としつつ、格調の高い業界を形成してゆきたいものである。

理 事 会 報 告

12月1日（日）

伊豆半島に懇親を兼ねて旅行、関西支部より丹羽・和田氏も来会され、情報の交換・検討等を行いました。

12月12日（木）

British Week 委員会終了後、懇談会のための打ち合わせを行う。

12月20日（金）

懇談会開催前に理事会を開き、議事の検討を行う。

懇 談 会 報 告

12月20日（金）於出版クラブ

(一) 理事長代理丸善前島氏挨拶

- (1) 懇談会開催が遅くなり、申し訳ない。
- (2) 昭和43年は、各委員会活動が極めて活潑であった。
- (3) 予算は、逐次修正されながら、適切な使用が進行している。
- (4) 名誉会長北村氏、及び大雅貿易の川上氏が、今年逝去されたので、深甚の弔意を表します。

- (一) 各委員会報告
- (二) British Week に関する報告。
- (四) 大学紛争問題

概況報告の後討議に入ったが、協会に関係者が非常に多く、寧ろもっと早く取り上げるべき問題であったとの声も出て、活発に論議がかわされた。対策については相手先の焦点が絞り難く、又効果の程が疑わしい面もあって難渋したが、結論として、「協会として何等かの意志表示を行う」こととし、そのために直ちに委員選出を行った。

委員：丸善・紀伊国屋・国際書房・U S アジアティック・三洋・南江堂・エンデルレ・極東・竹内

尚、この問題と関連して、得意先への商品滞溜期間を短縮し、納品・請求・入金を早めることと、紛争校の図書関係の情報を他校へ報せて、紛争勃発時の対策に遺漏のないようにして貰う等、被害を少なくする方法も併せて検討された。

- (五) アメリカ東海岸港湾ストの件。
- (六) 通貨不安の問題及び、西独の Governmental Export Tax の件。

2%の Tax は、そのはねかえりを加算すると5~7%の輸入業者の負担増となり、何等かの対策を要望されたが、尚通貨不安が継続しているため、今暫らく見送ることと決定。

関西支部だより

12月初旬協同カタログ完成。

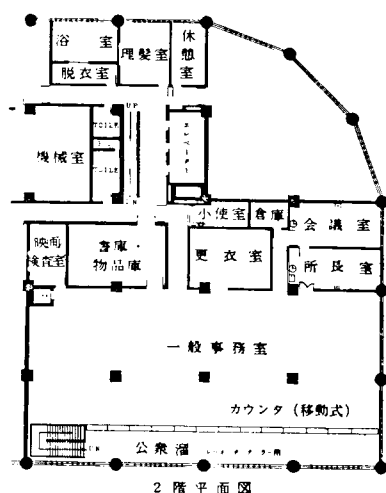
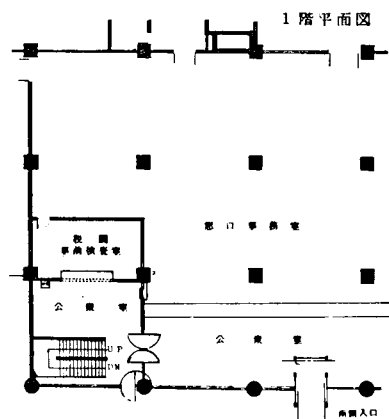
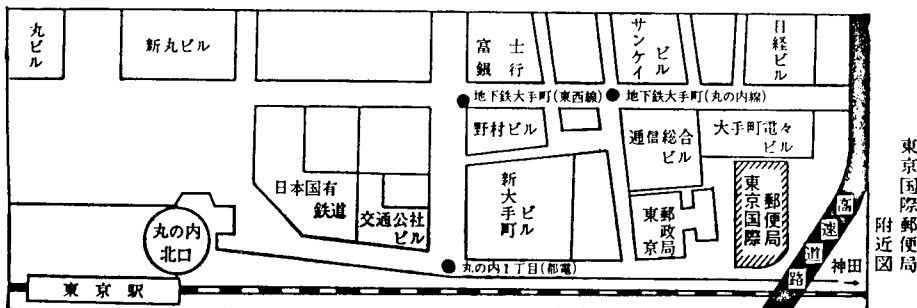
白表紙共用版を若干部作製、数社より申込をうけ 1冊 ￥100 にて配布。

12月例会は休会とす。

1月例会は新年会を兼ね1月14日 PM 6:00 より大東楼にて開催する。

東京税関東京外郵便出張所参観記

既にご承知のことと思いますが、去る10月下旬より東京中央郵便局の四階にありました東京税関東京外郵便出張所が大手町の東京国際郵便局の二階へ移転いたしました。新庁舎は東京駅から神田方向の国電左側車窓に見える白亜の六階建ビル



で、この二階が東京外郵出張所の新居なのです。

東京外郵出張所 関 所長のご好意により去る12月18日午後3時に、通関委員会および有志会員20名が同所を訪問いたしました。

二階の会議室に案内された一行は、まず関所長のご挨拶ならびに通関業務の迅速化を着々進められている現況、今後の業務拡大の見通しなどを拝聴しました。

次いで田畠審査官、小丸審査官にご案内いただき五階の国際郵便局オ二外国郵便課、四階のオ一外国郵便課の現場で、大きな外国郵便物の山や、ベルトコンベア、リフトなどによる作業の流れを実地見学、一日の量が5～7万個と伺い、その量の大きさに驚嘆し、またそれらが滞ることなく処理されている情景に感銘を受けました。

新しい税関の改善について感じましたことは、外来者に対するサービスが大巾に改善されたことです。外来者は通関手続のため税関窓口と郵便局窓口の双方を往来することが多いのですが、新局では郵便窓口が一階、税関窓口はその真上の二階にあり、一、二階の公衆溜りは外来者専用階段によって直結されています。そのため双方の窓口間の距離は大きく短縮されています。輸出郵便物の事前検査は、今までの中央郵便局では、一階で差出す郵便物を事前検査のため、わざわざ四階まで運搬せねばならない不便があったのですが、新局では検査場が一階郵便局窓口に隣接しており大変能率的になりました。又、外国来課税郵便物は、業者が内容点検の必要を生じた場合の便宜も計って五階から二階の外郵出張所への直通リフトが設けられ、作業に必要な充分なスペースも設けられています。

税関業務は郵便局業務から独立分離され、それがセクトにならずサービスの向上に良化されているという印象を受けました。

現場見学を終えた一行は、外郵出張所の映写室にて、映画「税関・貿易の旗手たち」を参観しました。最近制作された上映時間約30分のカラーフィルムで、明治開国以来の我国の産業の発展に寄与した保護関税の時代から、最近の世界貿易拡大を目的としたケネデーラウンド関税一括引下げ交渉及びその実施、さらに現今の航空機・コンテナ船による輸出入品の増大までの経過や、輸出入品の申告、免許、検査、保税工場での輸入原材料の加工、不法輸入品の監視摘発など、税関が我国の産業貿易の発展にどのような役割を果たしているか、また貿易が国の繁栄と結びつくには、それがいかに秩序正しく行なわれねばならないかが、分り易く、よく理解できました。

約2時間にわたる参観を終えた一行は、税関が年末にて御多忙のところを特に当輸入協会のために、この催しを開いてくださったことに感謝しつつ夕暮迫るころ、外郵出張所を辞去いたしました。

こゝに当日、お忙しいところをお集りいただき、熱心に見学くださった会員各位に心から御礼申し上げます。

通関委員会

会 員 紹 介

ソ連出版物とともに躍進

ナウカ株式会社

同社の株式会社としての設立は昭和27年（1952）であるが、その沿革はふるく、前社長の故大竹博吉氏がわが国最初のソ連出版物を輸入販売する窓口としてナウカ社を設立したのが昭和6年（1931）であるから、今日まで37—8年の歴史をもつことになる。戦後、同社が設立された際も、主要業務はソ連出版物の輸入販売であり、その後東欧、米・英・ヨーロッパ諸国出版物にもその業務を拡げているが、何といてもソ連出版物の国内市場に占めるシェアはオ一位であり、その中心的存在となっている。最近同社は同業者間にソ連出版物の卸取引きを働きかけているが、それはソ連出版物に対する関心と需要が広がってきたこともあるが、書籍にせよ、定期刊行物にせよ、近年、ソ連で需要層の可成り広い重要出版物が発行されるようになり、また書籍・雑誌単価の値上りなどもあって、そのような取引を可能にする条件が生れてきたためと思われる。

現在、東京池袋に本社、神保町に創業当初からの店舗、地方六都市に営業所がある。従業員数は約70名。広報宣伝刊行物としては、書籍については月刊カタログ「ナウカ洋書案内(A)」（社会・人文科学）、「ナウカ洋書案内(B)」（自然科学・文学）、その他に随時 Nauka Book News が発行されている。

洋書こぼれ話

「第一次世界大戦のあとと今と」

(その四)

国際書房 服 部 正 喬

Spengler: Des Untergang des Abendlands

の話し

第一次世界大戦の後で非常に評判になった書物に Keyserling の著書と Spengler の書物とがある。前者は一応やめて茲には Spengler の下記の書物のことを書く。

Spengler, Oswald: Der Untergang des Abendlandes.

Umriss einer Morphologie der Weltgeschichte.

Bd. 1 Gestalt und Wirklichkeit.

Bd. 2 Welthistorische Perspektiven.

ある学界誌(多分商学研究だと思うが)の評では、この書物は“国家や民族も生物のように漸次に生長して行き、生長が最盛期を過ぎると没落の過程には入る。歐洲諸国は既に最盛期を過ぎて、今や漸次に没落の段階にすすみつつある。而して今後勃興し隆盛に赴くのは露西亞であろう”。粗雑簡単に言へばこんなことのようにであった。勿論この書物の発行はロシア革命(1917)の後であろうが、この書物は独逸は勿論各国で大変な評判を呼び、我国でも best

seller になったと思う。

先年私は、東大の松田智雄先生を団長とする東大交響楽団の一行の Tübingen 大学訪問に便乗して、欧州各国の主要都市 London, Frankfurt, Paris, Amsterdam, Köln Tübingen, Bern, Zürich, Innsbruck, Salzburg, München, Wien, Copenhagen 等を歴訪した。そして受けた印象は、諸主要都市何れも“静温沈滞”のムードであった。どうして、こんな不活澆さを感じたのだろうか、帰国後吉田博士や小川博士等の医学界の大家に話をしたら“世界中でハッスルしているのはアメリカと日本丈だ”とか“歐洲は senil (ゼニール 老化)だから”とかの言葉が返って来た。Spengler の予言の通り歐洲の没落或いは没落が淋しくも実現しつつあるようす。

先年ある大会社の社長から Hudson Institute の Herman Kahn が書いた論文(あとで調べたら Working Papers on the Year 2000; A Framework for Speculation であったが)の評を聞いた。1966年に我国を訪問した Herman Kahn は日本の経済生長の実情其他を仔細に観察調査し、

帰国の後総仕上げした結果この六冊物の Working Papers
として纏めあげ、其一部を1967年 Macmillan から発行し
た。The Year 2000: A Framework of Speculation が
それである。未来学については既に未来学会も出来てお
り、上記の文献は大いに注目されていると思う。この書物
は33年後即西記2000年の世界各国の経済的地位や国々の個
人所得等等を相当突込んで書いてあるので、夫によると日
本はアメリカと共に、*№一位 Group のイ*、即ち工業化の
満ちたりた社会——最高の富裕国で個人も最富裕——の
Group には入り、ソ連はこの *Group のロ*（大分下ってい
るが）に、中国は遙に下って*№四 Group* には入ってい
る。私は Kahn の予測する未来に於ける我国の繁栄社会
の実現を熱望すると共に、其実現のために、経済生長の
Antithesis である諸種の運動が、わが経済及び教育社会の
自壊作用を起すことのない様に切に願ってやまない。

この稿を書くときに、Kohler も Volckmar の Barsor-
timent Katalog 1968/1969 をみたところ、Spengler の
Der Untergang des Abendlandes は現に Beck 社で
116-118 Tsd (Bd. 1) とか 141 Tsd (Bd. 2) として版を
重ねている外、合冊本や Gekürzte Ausgabe が出てい
る。不勉強な私は同書の最近の書評を聞いても、読んで
いないが、初版が発行されてから 45/46 年は経っていると
思はれるのに、尚生きた需要があるのは、ソ連や東独の興
隆や脅異に日夜心を悩ます同国の国際的地位のせいもある

であろうが。

Takeutsch: Die Wahrheitssucher

第一次世界大戦直後の駐日独逸大使ゾルフ博士は日独親
善のために非常に盡力された有名な大使であることは、今
尚記憶している人々も多いことと思う。しかし同博士が、
竹内氏の下記の書物に長文の紹介序文を書かれたことは知
る人は少いだろう。更にこの書物が国際書房の強い著者へ
の援助により原稿がなり、独逸書店で出版されるに至った
ことを知っている人は、今は極めて少い、殆んどないこと
だろう。

Takeutsch(Xzo): Die Wahrheitssucher. Gespräche
und Betrachtungen e Japaners, Eingeleitet
v. Wilhelm Solf, Leipzig: Insel Verlag 1923

無名の市井の孤立した一語学者の独文の書物は残念ながら
我国では余り顧みられずに終ったようす。この出版は、か
くて本当に洋書輸入業史上の“こぼれ話”と言うことだろ
う。ただ Insel が出版を引受けてくれたこと、Solf 大使
が序文を添へてくれたことは、注意してよいと思う。

それから約四十年後、私共はオランダの Excerpta
Medica Foundation から依頼を受けて Medical Abstract
Service を作り、日本の医学文献の抄録を蒐めて、同社に

送ることになった。航空便で送り始めてから数ヶ月経った頃、同 Foundation の Supervisor が、こちらから送った大量の Abstract を携帯して来朝し、本日の Supervisor の許で数日間を Supervision のために費した。日本人の書いた外国語文献がどんなものか、専門家であっても日本人の書いた英文が如何に語学的 quality の低いかをまざまざ見せつけられた。其後約八年、昨年上記の Foundation からの書信では、私共が送った最近の Medical abstract の quality of English は British Medical Scientists の間でも英文“極めて優秀なり”との批評を伝えて来た。大いに安心し又喜んだが、同時に四十四年振りで竹内さんの独文著書物の弔合戦が出来た様な感じがして、自分いささか慰めたものだった。

私の“こぼれ話”を読んだ或る大学の不断から尊敬している先生から“楽しく読んでいる”旨の書状を頂いて、大いに嬉しく、急に元気づけられてこんなことを書いてみた。御採録願へれば幸甚と思う、私流の書き方、考へ方で書くのには資料がためがあるので、今回は之で擱筆します。(12. 27. 1968)

(服部)

会 員 紹 介

地方都市の発展を念願として

株式会社 日米センター

広島に同社が設立されたのは昭和24年にさかのぼる。創業当時の主な業務は、海外渡航者のための渡航諸手続き及び渉外事務の代行、そして新聞雑誌の輸入であったが、次第に書籍の輸入を本格的に始めるようになり、小規模ながら、地方都市に於ける直輸入業者としてユニークな存在をしめすようになった。海外の情報収集の一翼をになう洋書業者が、ともすれば大都市偏重になり勝ちのとき、世界の文化を直接顧客に案内し、求められるものを広く紹介、供給し、地域社会の発展の一助にしたいのが同社の念願である。

書籍輸入の傍ら、外貨特別割当時代から引続きLPレコードの輸入を手がけ、同地の民放局には開局初期から今日までLPレコードを納入している。又現在では事務機器類も取扱い、営業品目の増加に伴い積極的に事業を拡大する意慾を燃やしている。

海外ニュース

「フランス出版社売上高統計（1967年度）」

仏出版社組合の経済局が、アンケートに解答を寄せた 383 社の実績に基いてまとめ上げた種々の統計の結果を次に示してみる。（金額には、約 2 %をしめる著作権渡料が含まれる）

I) 総 売 上 高: 1,462百万フラン

前 年 度 比 + 9.46%

（内 訳）文学一般35%、教育19%、百科事典他大物15%、児童書11%、科学技術6.6%、美術 3 %、法・経・政2.5%、etc.

III) 市 場

国 内: 1,199,655千フラン

輸 出: 261,977千フラン

輸出先は、1. ベルギー・ルクセンブルグ、2. カナダ、3. スイス、4. 米国の順で、以上で全体の54%を占める。

III) 輸 入: 223,162千フラン

前 年 度 比 + 11%

IV) 年間総売上高の53%は、上位20社によって占められる。（Bibliographie de la France, No 50. 11 Déc. 1968より）

「グロリア社がスケアクロウ社を買収」

各種の書籍や図書館学関係の出版で知られている、アメリカの Scarecrow Press は、Grolier Incorporated に買収され、今後は、Scarecrow Press Division of the Grolier Educational Corporation という名で、グロリア社の系列会社の一部局として出版活動を続けることになった。

なお、この新部局の長には、アメリカ図書館協会 (ALA) の前会長、前ハワイ大学図書館学教授の Ralph R. Shaw 氏が就任した。
(Publishers' Weekly, 1968年12月6日号より)

「CCM社が英国のチャップマン社を買収」

このところ積極的に吸収合併をおし進め、次々に各種の出版社を自己の系列下に収めている Crowell Collier and Macmillan 社は、このほど、ロンドンの Geoffrey Chapman Ltd. を買収した。

チャップマン社は、主としてカソリック系の宗教書、教養書の出版で知られているが、最近では教科書の分野にも進出していた。なお同社の社長チャップマン氏はマネージング・ディレクターとしてとどまるほか、スタッフはほぼそのまま同社に残る模様である。
(Publishers' Weekly, 1968年12月6日号より)

- 米 Princeton U. P. の Marketing Manager, Mr. Abbot U. Friedland 12月中旬来日。
- 英 Nelson 社の Director, Mr. E. U. Milne 12月中旬来日。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

株式会社教文館 ☎ (561) 8446

Zwischen den Zeiten, Vols. 1~11, (All publ.) 1919—1933. (Johonson Rep.) rep. 1969. ca. 120,000

Revised Standard Version. Interlinear Greek-English New Testament. (Bagster) 1968. 3,400

数学界の最新研究成果を収録する名シリーズ...

Lecture Notes in Mathematics

このシリーズは数学および関連分野の最新の研究成果を網羅するもので、最新のオリジナル論文、新らしい分野の理論、古典的分野の新らしい観点からの理論、ゼミナール・レポート、各種学会での提出論文などのほか、現在絶版になっていながら新らたに注目をあびている論文を逐次収録してゆくものです。弊社は本シリーズの日本総代理店として一手販売をいたしております。ぜひご用命ください。

■ 近着予定新刊

- Vol. 76: Algebraic K-Theory. By R. G. Swan. '68. iv, 262p. ¥ 1,890
- // 77: Processus de Markov: La frontiere de Martin.
Par P.-A. Meyer. '68. iv, 123 p. ¥ 1,050
- // 78: Topologische Reflexionen und Coreflexionen.
Von H. Herrlich. '68. XVI, 166 S. ¥ 1,260
- // 79: Catégories Cofibrées Additives et Complexe
Contangent Relatif. Par A. Grothendieck. '68
iv, 167 p. ¥ 1,260
- // 80: Seminar on Triples and Categorical Homology
Theory. Ed. by B. Eckman. '68, iv, 398 p. ... ¥ 2,100
- // 81: Méthodes Algébriques en Mécanique Statistique.
Par J.-P. Eckmann et M. Guenin.
'68. vi. 131 p. ¥ 1,260
- // 82: Grundräume und verallgemeinerte Funktionen.
Von J. Wloka. '68. VIII, 131 S. ¥ 1,260
- // 83: An Introduction to the Theory of Algebraic
Surfaces. By O. Zariski and J. Cohn. '68. iv,
100 p. ¥ 840

SPRINGER
VERLAG
Berlin

日本総代理店



東京・日本橋
電話 272—7211(大代表)
振替 東京 5 番
其 他 各 地 支 店

昭和44年 1 月 通巻第21号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋 1—15—5 藍沢ビル302号室 ☎ 271—6901
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371—5329